

強者の戦略

強者の国語・〔古文・問題編〕

大阪大学の過去問（二〇一八年・文学部以外）です。問三・四・六の和歌関連の設問は、古文の学習がまだ十分でない人には少し難しく感じるかも知れませんが、自分の古文の力を試す意味でもしっかりとチャレンジしてみてください。（目安…30分程度）

次の文章は『和泉式部日記』の一節で、宮と女との恋をめぐるやりとりが描かれている。この文章を読んで、後の問い（問一～問六）に答えなさい。

宮も、言ふかひなからず、つれづれの慰めにはおぼすに、ある人々聞こゆるやう、「このごろは、源少将げんせうしやうなむいますなる。昼もいますなり」と言へば、また、「治部卿ちぶきやうもおはすなるは」など、口々聞こゆれば、いとあはあはしうおぼされて、久しう御文もなし。
（注）小舎人こしやにん童来わらわたり。樋洗童ひすましわらわ、例も語らへば、ものなど言ひて、「御文やある」と言へば、「さもあらず。ひと夜おはしましたりに、御門に車のありしを御覧ごらんじて、御消息ごせうそくもなきにこそはあめれ。人おはしまし通ふやうにこそ聞こしめしげなれ」など言ひて去ぬ。

かくなむ言ふ、と聞こえて、いと久しう、なによかよと聞こえさすることもなく、わざと頼みきこゆることこそなけれ、時々もかくおぼし出でむほどは絶えであらむとこそ思ひつれ。ことしもこそあれ、かくけしからぬことにつけてかくおぼされぬと思ふに、身も心憂くて、なぞもかく、と嘆くほどに、御文あり。

「日ごろは、あやしき乱り心地のなやましさになむ。いつぞやも参り来て侍りしかど、折悪しうてのみ帰れば、いと人げなき心地してなむ。」

（あ）よしやよし今はうらみじ磯に出でてこぎ離れ行くあまの小舟を」

強者の戦略

とあれば、^(c)あさましきことどもを^(e)聞こしめしたるに、^(d)聞こえさせむも恥づかしけれど、このたびばかりとて、^(B)袖のうらにただわがやくとしほたれて舟流したるあまところなれと聞こえさせつ。

(注1) 小舎人童 こどねりわらは 貴人のもとで、雑用をつとめる少年。

(注2) 樋洗童 ひすましわらは 下々の用事をする下女。

問一 傍線部(a)～(d)について、文脈に沿うように、主語を補って現代語訳しなさい。

問二 傍線部(A)「いと人げなき心地してなむ」とあるが、なぜそのような心地がしたのか、説明しなさい。

問三 和歌(A)で用いられている縁語をすべて答えなさい。

問四 和歌(A)を、比喻表現をふまえて、現代語訳しなさい。

問五 傍線部(イ)「あさましきことども」について、次の(1)～(2)に答えなさい。

(1) 「あさましきことども」と同じことを指す言葉を、文中から書き抜きなさい。

(2) 「あさましきことども」とは、具体的にどういうことか、説明しなさい。

問六 和歌(B)を、比喻表現をふまえて、現代語訳しなさい。